平成30年度 延岡市立島野浦中学校 学校関係者評価書

4段階評価

4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン

島野浦の特徴(人・もの・こと)を生かした教育活動を展開し、社会で通用する力、社会で大切にされる資質をもった生徒を育成する。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己取組別	関係者 評価	結果の考察・分析および改善策等
知育	【重点目標】 確かな学力の定着と主体的な学習の推進 【目標達成のための手段・具体的な取組】 1 わかる・できる授業の実践〜確かな学力 を育むための授業改善 (教師自身の授業力向上を目指した一人一研 究の取組とICTの活用と工夫)	○ 全職員が2回以上の研究 授業の実施。 ○ 生徒・保護者アンケートで 「わかる」「できる」と答え る生徒6割以上。 生 徒:92.3% 保護者:91.7%		3		 ○ 授業改善により、生徒の満足度も上がった。 ○ 全体としては、高い数値だが、個別に見ると課題を抱えている生徒もいるため個に応じた指導をさらに行っていく。 ● 家庭学習の見届け(生徒:66.7%保護者:50%)であるため、見届けの手法や内容を保護者に示し、連携を図る。 ○ 家読の推進を啓発していくために、メディア使用の実態を把握し、指導を行う 評議員意見 ○ 読書については、目には見えてこないが、自分のこやしになる。読書の大切さを今後の伝えてほしい。家でゲームをしている生徒が多いのでは。
	2 徹底した個別指導~学習内容の補充・深化「SSタイム」と「島中学びタイム」の実践 (校時程を工夫して帰りの会終了後10分間を設定し、各教科の基礎・基本の定着を図る)	区平均点以上。 〇 生徒・保護者アンケートで	習内容を見直し、基礎基本の確実な定	3	3	
	3 学力の定着を図るための家庭学習の見直	〇充実度6割以上。 生徒:76.9% 保護者:83.3%	〇 「SSタイム」で授業と家庭学習の 仕方を指導する。	3		
	4 読書をする習慣の定着〜学校での朝読書 家庭での家読の習慣を推進する。	生徒・保護者アンケートで達成感、充実度6割以上。生徒:84.6% 保護者:50%	○ 朝の読書と読み聞かせの時間の設定を行うとともに、意欲的に取り組むように工夫をする。	2		
徳育	【重点目標】 心の教育の充実 【目標達成のための手段・具体的な取組】 1 あいさつや基本的な生活習慣の徹底~「 語先後礼」「島中授業の5原則」の実践	(2) 生徒・保護者アンケートで 実践度6割以上。生徒:100%保護者:100%	○ 日常の学校生活を通して、全職員が 一貫した指導を行う。○ 生徒会活動で自発的な取組を行う。	3	- 3	 ○ 校内でのあいさつや生活習慣に問題はないが、校外や家庭でのあいさつ等の指導を今後も継続していく。 ○ 必要なスキルを生徒自身にも考えさせ道徳の時間や学校生活においてスキルを獲得する教育活動を意図的に組む。 評議員意見 ● メディアについての指導をどう行っているのか。中学生段階から指導をする必要がある。
	2 ライフスキルの育成〜島を離れ、社会で 大切にされる資質を育む。	生徒・保護者アンケートで達成感、充実度6割以上。生徒:100%保護者:100%	○ 道徳の時間等を活用し、計画的に社会で必要な資質や能力(ライフスキル)を育む。	3		

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己取組別		自己評価
体育	【重点目標】 体力向上と食育の充実 【目標達成のための手段・具体的な取組】 1 教科や部活動での体力・競技力の向上〜 生徒数減少を見据えた体力向上プランの実施。	○ 生徒・保護者アンケートで達成感、充実度6割以上。生徒:100%保護者:91.7%入部率:50%	○ 保体の授業を通して、個人の課題に 応じた体力トレーニングを工夫し、技 能の上達や体力向上に努める。	3		● 部活動以外に体力向上の手立てを啓発していく必要がある。○ 食育のねらいを整理し直し、日常での指導、家庭でできることの取組を推進していく。評議員意見
食育	2 計画的な食育活動と「弁当の日」の充実 ~生徒・保護者への啓発を行う。	〇充実度6割以上。 生徒・保護者:100%	○ 弁当の日を年間2回実施し、食の自立への関心を高める。	3	3	 ○ たまには、トンネル開通前の登校道を 通学させても良いのではないか。 ○ 体育館の夜間開放を利用して、子ども の体力向上は図れないだろうか。 ● 部活動も指導者が替わると途絶えてしまう傾向があるため、卓球部は妥当かもしれない。 ○ 簡単なスポーツを楽しくできる環境をつくることはできないか。
地育	【重点目標】 島野浦小学校や地域との連携 【目標達成のための手段・具体的な取組】 1 小中合同による研修や行事の充実、交流 授業の推進	○ 職員・生徒・保護者アンケートで充実度6割以上。生徒:100%保護者:100%教師:100%	○ 連携型小中一貫教育を推進し、視野に、小中合同の研修や行事を行う。○ 小学校への乗り入れ授業を実施する。	4		○ 小中合同の研修や部会を計画的に行い 9年間の指導事項を小中職員が共通理解し、日々実践していく体制をつくる。○ 島への貢献活動を継続していき、地域人材の活用を積極的に図る。○ 学級通信、学校便り、HPの更新を継して行う。
	2 開かれた学校の推進 ~「土曜授業」の活用と「島への貢献活動」 ~地域の人材を活用した学校行事や体験的な学習の推進。学校便りやHPの更新	○ 職員・生徒・保護者アンケートで充実度6割以上。 生徒:92.3% 91.7% 保護者:90.9% 81.8% 教師:100% 100%	○ 地域の人材を活用した行事や体験 的な学習を行う。○ 学校だよりやホームページの更新 を行う。	3	3	評議員意見 ○ 一人の人間として堂々と自分の考えを主張できる大きな子どもを育成してほしい。 ○ 子どもを中心にみているが、教師の息を抜く場も必要ではないか。教える側に余裕がないとよい教育はできないのではないかと思う。情報社会となり、情報過多の時代であるため、遮断する方法等も指導してほしい。それぞれの子どもの得意分野を伸ばしていく指導をしてほしい

校長所見

次年度の方向 2021年度、学習指導要領の全面実施に向け、これまで取り組んできた授業改善はもとより、特別な教科道徳の実践、小中一貫校への準備等 |性についての|地域とともに実践していきたい。